

## 第32回岐阜県原爆死没者慰霊祭へのメッセージ

第32回岐阜県原爆死没者慰霊祭にあたり、戦争により尊い命を失われた死没者のみなさまに心から哀悼の意を表します。

岐阜県原爆被爆者の会(岐朋会)の皆様には、「岐阜県ピースアクション連絡会」に毎年ご参加いただき、ともに平和の活動に取り組んでおられることに心より敬意を表します。また、「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」では、県内の被爆者の証言活動や、「すべての国に核兵器禁止条約の批准を求める署名運動」にも共同して取り組んでいただき、これらの活動を通して、県内の各地域に核兵器廃絶に向けた取り組みが着実にひろがっていることを心強く思います。

しかしながら、一昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は未だ収束の見通しがたたず、イスラエルとパレスチナ(ガザ地区)との戦闘でもかけがえない多くの貴重な命が奪われ続けています。さらには、核保有国が核兵器の使用を仄めかし、核実験も実施するなど、武力による威嚇が日本も含めた国際社会の中で幅を利かせていることは、極めて憂慮すべき事態です。

私たち生活協同組合の岐阜県における歴史は70年余を数えます。創立時より、地域の中でさまざまな人や組織が協同することにより、地域のくらしや仕事、社会を、持続可能でよりよいものにしていくことを使命として活動してきました。平和の取り組みはその原点ともいえるものであり、生活者一人ひとりの立場から「台所から平和を」願い、命を守る平和の活動を進めています。そして、ヒロシマ・ナガサキを忘れず、核兵器廃絶を願い一人ひとりが考え行動しています。

今年は終戦から79年を数え、被爆者の平均年齢も85歳を超えました。「二度と被爆者をつくらない」という願いを実現させていくためには後退は許されません。全世界で大きく動き始めた核兵器廃絶へのうねりを途切れさせることなく、より確かなものにしていくために、今こそ私たちはさらに力を集めていくことが必要であると考えます。

私たちは、これからも岐朋会の皆様とご一緒に活動できる貴重な時間を大切にして、若い世代への方に核兵器廃絶の願いを継承する取り組みを進めてまいります。日頃の感謝とともに、引き続き私たちとともに平和の取組みを進めていただくことをお願い申し上げ、第32回岐阜県原爆死没者慰霊祭へのメッセージとさせていただきます。

2024年9月27日 全岐阜県生活協同組合連合会 会長理事 根崎 周一